

DENKEN



ENVIRONMENTAL REPORT

2015

人と自然、人と産業の調和 快適な営みが未来永遠に存続するモノづくり

環境レポートの発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

このたび「環境レポート2015」を発行いたしました。
2014年度における環境活動の内容と成果をまとめさせて頂いております。

2014年度の当社は、操業40年目となる節目の年でありました。
また、環境活動もISO14001の認証取得から13年目を迎えました。
その間、お客様・お取引先・地域社会・行政機関等、多くの方々よりご支援・ご協力を賜りましたことを、この場をかりて御礼申し上げます。

当社は様々な事業分野にチャレンジしております。
2012年11月に参入したメガソーラー事業では、現在6基（8.5メガ）のメガソーラーが稼働しております。メガソーラーの建設にあたっては、環境に配慮することは勿論のこと、周辺地域の方々にも賛同を得られるよう、当社基準による「環境アセスメント」を実施し、関連法令の順守・環境負荷の低減に努めており、今後も継続して建設を進めていく計画です。

医療機器分野におきましては、2014年度に「リハビリテーション用新型電気刺激装置：DRIVE」を開発・販売開始し、県内外より高い評価を頂いております。
また、2015年6月より本社近くの由布市鬼崎地区に建設した板金・機械工場（鬼崎工場）が稼働を開始し、新たに航空宇宙関連分野への挑戦をスタートさせます。

当社は、「持続可能な社会の実現を人類最大の課題として捉え、事業活動の全ての面で地球環境に配慮し、行動します。」の環境方針のもと、ステークホルダーの方々との協力関係をより深化させ、環境負荷の低減や地域社会への貢献に努力しながら、今後も様々な事業分野に挑戦し続けてまいります。



株式会社 デンケン
環境最高責任者
代表取締役社長

石井源太

はじめに

2014年度を振り返りますと、御嶽山の噴火や広島での大規模土砂災害、京都での記録的な集中豪雨などの自然災害が多発し、その規模は年々拡大しているように思えてなりません。

また、70年ぶりにデング熱の国内感染が確認されるなど、地球温暖化が原因と思われる事象が益々増加するのではと危惧されます。

当社は、事業範囲の拡大を契機に2015年3月に環境方針の見直しを行い、メガソーラー建設・運営により太陽光発電を促進し二酸化炭素排出量の削減を行うなど、「持続可能な社会の実現」をより一層意識した事業活動を進めることとしました。

2015年度からは、当社の事業活動に直接的に影響を与えると想定される側面を絞って取り組んで参ります。

2014年度は、2011年にスタートした環境活動5ヵ年計画の4年目となりましたが、殆どの活動項目において、1年前倒しで目標をクリアできましたことを、本レポートにて報告させていただきますとともに、今後とも当社の環境活動について、皆様方より忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願い申し上げます。



環境管理統括責任者
取締役相談役

大谷 信行

目次

ソーラーファーム熊本城南	表紙
ごあいさつ	P1
はじめに	P2
会社沿革・概要	P3-4
環境方針	P5
環境管理体制	P6
環境活動実績	P7-14
環境教育	P15
環境側面	P16
順守評価	P17
環境監査	P18
安全衛生	P19
BCP	P20
コミュニケーション①	P21
コミュニケーション②	P22

編集方法

本報告書は、株式会社デンケン（主に3事業所）の2014年度の環境保全活動の実績をご紹介します。

作成にあたっては、皆さまに当社の環境保全活動の内容や取り組みをわかり易くお伝えできることを念頭に編集いたしました。

今後更に皆さまにお伝えする情報として満足していただけるものとする為に是非ご意見・ご質問をお寄せ下さい。

報告書対象範囲
報告書対象期間 2014. 4. 1~2015. 3. 31
報告書対象事業所
本社（由布市）
電子デバイス事業部（杵築市）
ML事業部（国東市）
※一部 鬼崎工場 八坂工場を含む

報告書発行年月日 2015. 6. 24

今回で14回目の発行

次回 2016. 6. 30 発行予定

環境レポートのお問合せ先：
株式会社デンケン 環境管理委員会事務局
TEL：097-583-5535 FAX：097-583-5580
E-mail：eco@dkn.co.jp

会社沿革

- 1975年 10月 大分市大道町にて創業
- 1989年 11月 大分県中小企業フロンティア賞を受賞
- 1994年 10月 第6回中小企業優秀新技術・新製品賞奨励賞受賞（あさひ中小企業振興財団・日刊工業新聞社）
- 1995年 11月 ISO 9002 認証取得（電子デバイス事業部）
- 2001年 10月 デンケンエンジニアリング株式会社 より 株式会社デンケンに社名変更
- 2002年 5月 ISO 14001：1996 認証取得（本社、電子デバイス事業部、ML事業部）
- 2003年 4月 エコおおいた推進事業所に登録
- 2003年 11月 ISO 9001:2000 認証取得（電子デバイス事業部）
- 2006年 5月 ISO 14001:2004 認証取得（本社、電子デバイス事業部、ML事業部）
- 2006年 8月 経済産業省より「元気なモノ作り中小企業300社」受賞
- 2006年 8月 ISO 13485:2003認証取得（ML事業部）
- 2007年 9月 大分県公安員会よりパチスロ遊技機の製造認定
- 2008年 1月 エコ私募債発行（大分銀行4億円）
- 2009年 4月 ISO 9001:2008 認証取得（電子デバイス事業部）
- 2011年 4月 石井源太 社長就任 / 石井四郎 会長就任
- 2012年 11月 メガソーラー事業参入
- 2013年 4月 エネルギー事業部発足
- 2013年 6月 ソーラーファーム由布 稼働開始
- 2014年 2月 ソーラーファーム佐伯 稼働開始
- 2014年 4月 PV事業部とエネルギー事業部の統合によりソーラー事業部発足
- 2014年 10月 ソーラーファーム熊本城南、ソーラーファーム宇佐 稼働開始
- 2015年 3月 ソーラーファーム阿蘇、ソーラーファーム丹川 稼働開始

ISO認証取得状況



Management System
ISO 14001:2004
www.tuv.com
ID: 9105014278

ISO14001
本社
ML事業部



Management System
ISO 9001:2008
ISO 14001:2004
www.tuv.com
ID: 9105014278

ISO9001
ISO14001
電子デバイス事業部



ISO13485
ML事業部

大分県



本社（由布市）



鬼崎工場



八坂工場



電子デバイス事業部（杵築市）



ML事業部（国東市）

※ 鬼崎工場、八坂工場は環境ISOの認証取得はしていません。

会社概要

会社名: 株式会社デンケン
 代表者: 代表取締役社長 石井 源太
 所在地: 本社
 □管理本部 □調達本部
 □SS事業部 □PA事業部 □ソーラー事業部
 大分県由布市挾間町高崎97番地1
 電子デバイス事業部
 大分県杵築市大字守江1300番地
 ML事業部
 大分県国東市武蔵町手野1560
 設立 : 1976年6月
 資本金 : 7,520万円
 従業員数 : 353名 (2015年4月1日現在 契約社員含む)



事業内容:

太陽電池検査装置
 電子応用機器の研究・開発
 半導体検査装置
 メカトロ機器の開発・製造
 各種FA自動測定試験装置
 駐輪場総合管理システムの開発・製造
 ホール管理用コンピュータ開発・製造
 試験用電源の開発・製造
 IC/LSI組立/測定/検査受託サービス

汎用パッケージ/セラミック試作受託サービス
 不良解析/各種信頼性試験受託サービス
 人材派遣/請負業務サービス
 線面発熱体製造・販売
 医療機器及び健康関連機器の製造販売
 板金・機械加工
 業務用電気給湯器
 太陽光発電所の企画、建設エンジニアリング、
 運営・メンテナンス管理

主な製品・サービス紹介

ソーラー事業部

(Photovoltaic : 太陽電池)



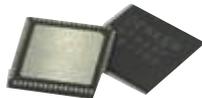
太陽電池モジュールテスター



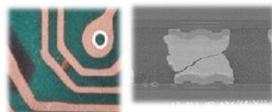
太陽電池ELテスター

電子デバイス事業部

(Electronic Device)



半導体製造



半導体解析サービス

SS事業部

(System Solution)



三相交流発生装置

PA事業部

(Parking & Amusement)



駐輪場総合管理システム

ML事業部

(Medical Living)



家庭用医療機器



医療関連部品組立装置



医家用医療機器

基本理念

『株式会社デンケンは、持続可能な社会の実現を人類最大の課題として捉え、事業活動の全ての面で地球環境に配慮し、行動します。』

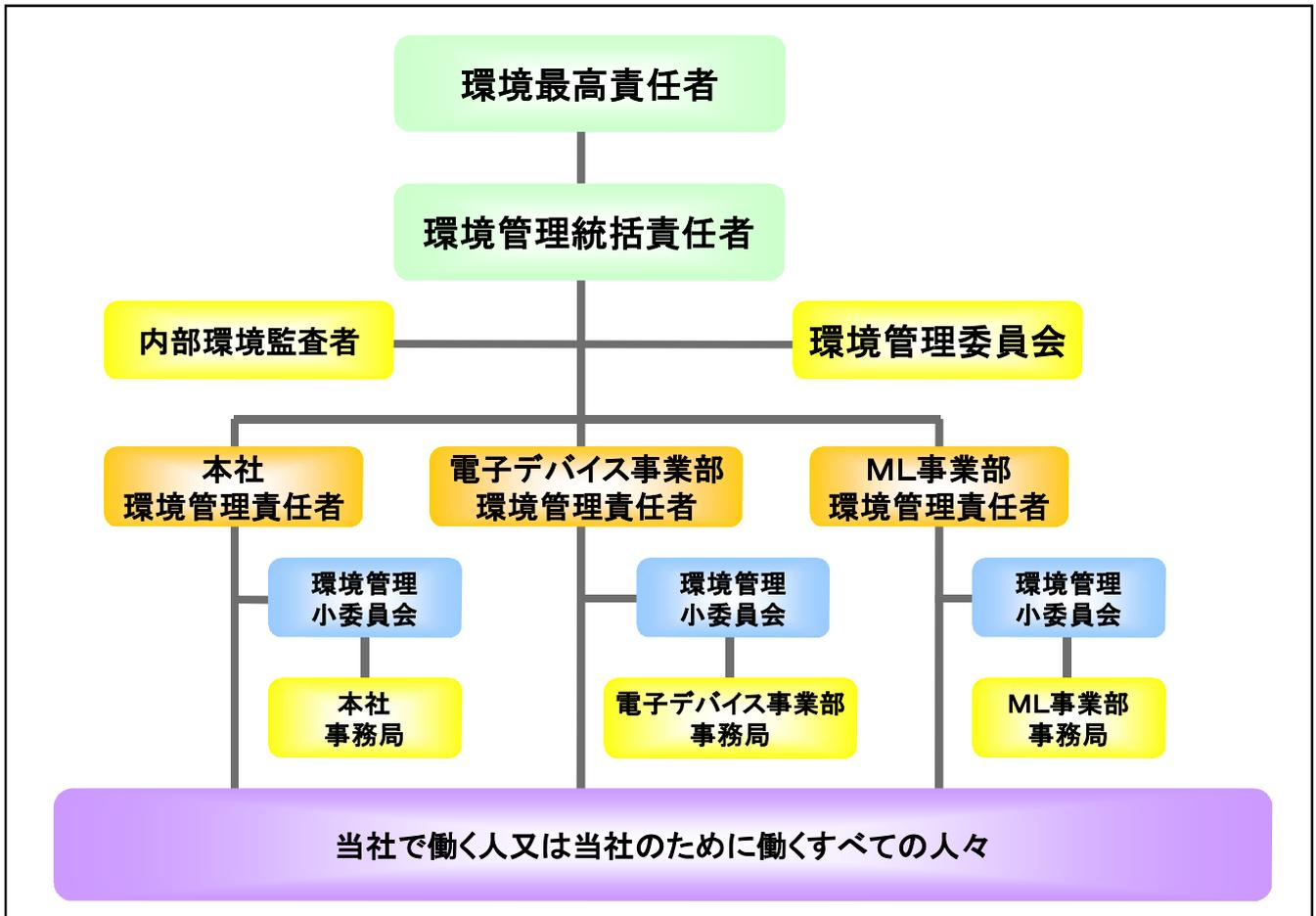
基本方針

『株式会社デンケンは自然と共生する恵まれた地球環境を再認識して、「私たちは人と自然、人と産業が調和し、快適な営みが未来永遠に存続するモノづくりにチャレンジします」をスローガンに掲げ、あらゆる開発・設計・組立において、次の通り環境管理並びに環境負荷の低減に全力を挙げて取り組みます。』

- ① 全ての事業活動により発生する環境影響を確実に把握し、環境目的及び目標の設定、定期的レビューにより、環境汚染の予防等、環境保全活動に積極的に取り組みます。
- ② 環境管理体制を整備し、継続的な環境保全・改善に取り組みます。
- ③ 環境側面に関連する適用可能な法規・条例等や、顧客要求事項等、我々が同意したその他の要求事項を順守し、可能な限り自主的に管理基準を定め、維持管理の向上に努めます。
- ④ 事業活動により発生する環境影響(負荷)の低減及び地球環境保護の為、以下の活動に取り組みます。
 - ・環境影響を考慮した製品の設計開発及び製造
 - ・CO₂排出量の削減
 - ・廃棄物排出量の削減
 - ・化学物質の適性管理
 - ・環境に配慮した用品の購入推進
 - ・工場敷地内の緑化推進及び工場周辺の清掃活動の実施
- ⑤ 本方針を実施・維持する為に、当社で働く又は、当社のために働く全ての人々に対し、環境方針の掲示等により周知徹底を行います。
- ⑥ 社外からの要求に対し、本方針を公開します。

作成日：2015年3月4日

環境管理体制



<補足説明>

株式会社デンケンの環境管理体制は、業種の異なる3事業所より構成しています。基本的な環境保全活動は事業所単位にて行い、各事業所の代表者を環境管理責任者とし、推進しています。

環境管理委員会

月に3度開催し、各事業所の進捗状況の確認・報告、改善策の検討、環境関連情報の交換等の環境保全活動の推進を行っています。又、年度末に開催される環境管理委員会には「マネジメントレビュー」という形で環境最高責任者が出席し、環境マネジメントシステムの総合的なレビューを行い、継続的改善に取り組んでいます。

環境管理小委員会

事業所毎に毎月開催し、活動の進捗状況の確認・報告、問題点の抽出及び対応策の検討等行い、環境保全活動の推進を行っています。結果は、環境管理委員会へ報告されます。

環境活動

2014年度実績・2015年度目標

項目	2014年度目標	実績	結果
環境配慮設計	本社：環境配慮設計の為の改善提案数：20件	20件の提案	達成
	ML：新規商材の製品環境アセスメントの実施（対象：2件）	2件完了	達成
エネルギー消費量削減	本社：2010年度原単位実績比 4%削減	達成率：161.1%	達成
	電子：2010年度原単位実績比 4%削減	達成率：146.5%	達成
	ML：2010年度原単位実績比 4%削減	達成率：111.9%	達成
CO2削減	本社：2014年度末までに太陽光発電により3,304t-CO2/年削減する。	達成率：112.0%	達成
廃棄物対策	本社：リサイクル率87%以上を達成する。 （鬼崎工場・八坂工場含む）	達成率：101.9%	達成
	電子：ゼロエミッションを継続する（リサイクル率98%以上）	達成率：99.5%	未達成
	ML：リサイクル率を74%以上とする。	達成率：117.3%	達成
環境汚染物質対策	本社：鬼崎工場の環境汚染物質管理体制構築を継続する。	進捗度：100%	達成
	電子：薬品使用量/個数=54mlを継続する。	達成率：114.4%	達成
	ML：塩化メチレンの使用量を調査/記録/報告する。	進捗度：100%	達成
地域環境整備	本社：構内・外の周辺清掃を実施するとともに、 行政・地域の環境保全活動に参加する。	周辺清掃 3回	達成
	電子：周辺清掃を3回以上実施する。	周辺清掃 3回	達成
	ML：構内・外の周辺清掃を実施するとともに、 行政・地域の環境保全活動に参加する。	周辺清掃 2回 構内清掃 4回	達成

サマリーデータ、詳細はP8～P12に掲載

項目	2015年度目標
エネルギー消費量削減	電子：2015年度上期中に、2017年度末までの電力消費量削減数値を決定する。 （補助金活用）
CO2削減	本社：太陽光発電によりCO2排出量を累計8,655t-CO2削減する。
廃棄物対策	電子：2015年度中に、2017年度末までの研磨廃液量削減数値を決定する。 （モニタリング、施策検討）
環境汚染物質対策	本社：2017年度末までに鉛フリー半田の完全導入に向け、実務レベルでWGを設置し、 具体的な実行施策を策定する（目標の再設定）。 ML：2017年度末までに塩化メチレンの変更を行うため、代替品の検証及び使用量の把握を行う。

2015年度の環境目標については、当社の事業内容に密接に係わる環境側面に的を絞り設定しています。

環境活動 CO₂削減

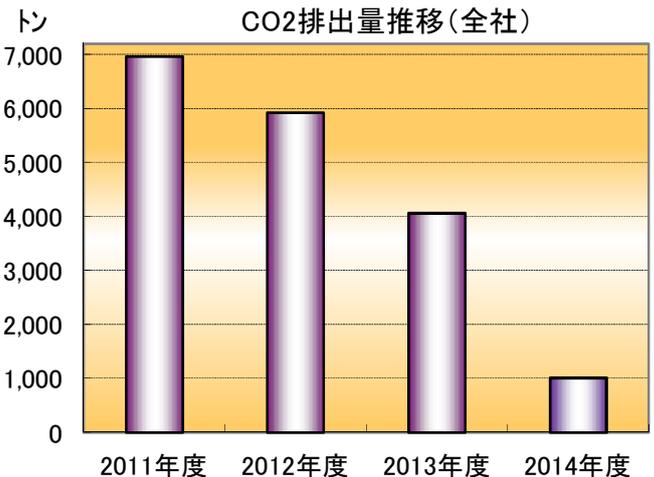
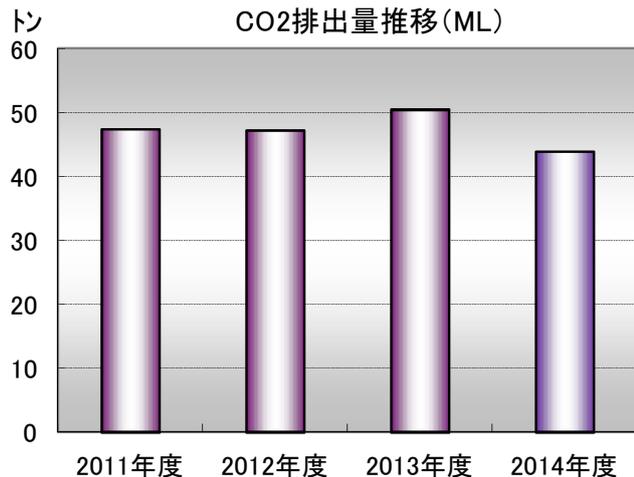
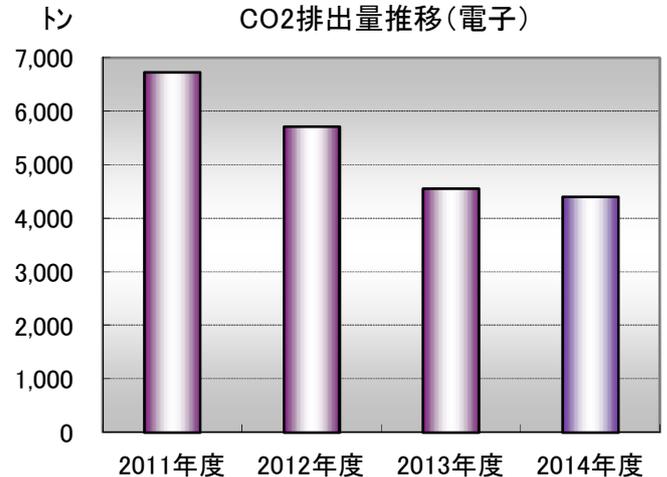
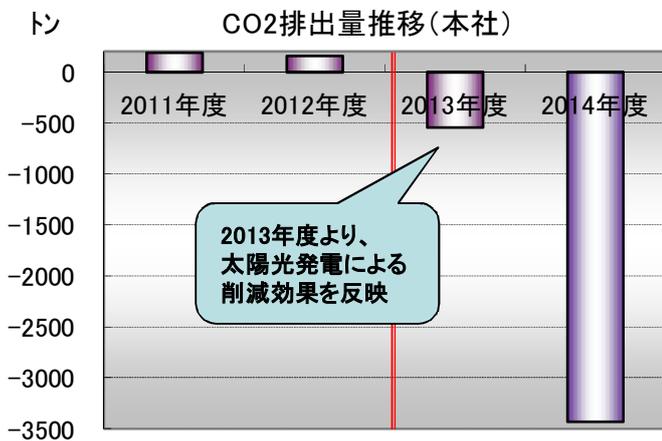
CO₂削減に対する取り組み

- ①照明管理
(昼休みの消灯、照明の間引き、スイッチの細分化)
- ⑦太陽光発電所設置
- ②空調管理 (空調の設定温度管理、効率運転)
- ⑧社有車のエコドライブ推進
- ③OA機器管理 (昼休み、外出時等の電源OFF)
- ⑨COOL BIZ WARM BIZ 推進
- ④低負荷設備の待機電力の削減
- ⑩可燃物の削減
- ⑤レスペーパー
- ⑪高効率空調機への更新
- ⑥コンプレッサー稼働率低減
- ⑫社有車エコカーへ切り替え



CO₂排出量の推移

※CO₂(t)換算係数: 使用電力量(KW/H) × 0.000503



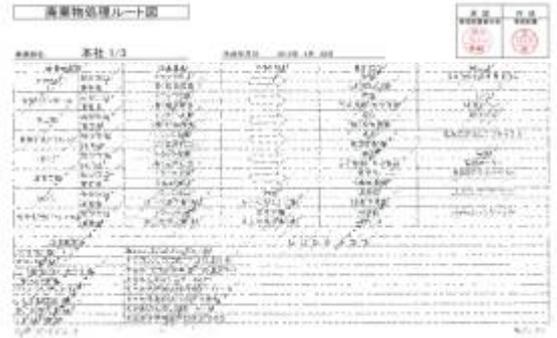
<本社> 工場稼働率向上によるファシリティー関連設備の高負荷化。太陽光発電効果。
 <電子デバイス事業部> 生産変動により空調停止や設備稼働が若干低下。
 <ML事業部> 前年度に比べ、工場稼働率が低下。

環境活動 廃棄物対策

リサイクルの推進活動

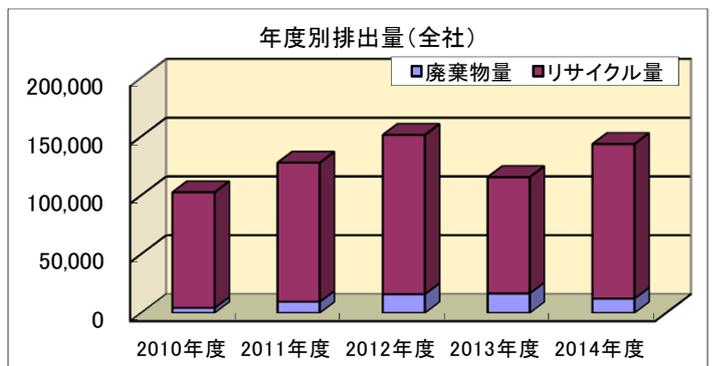
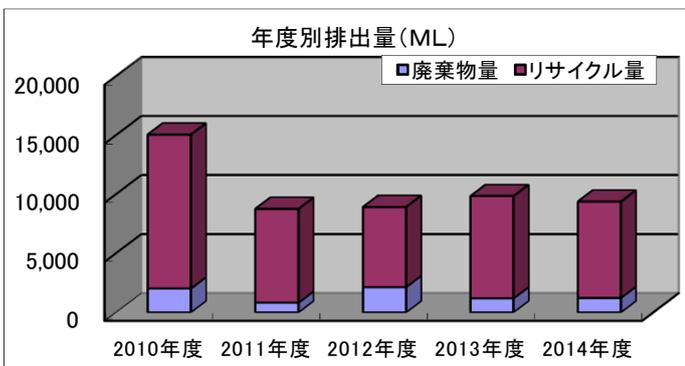
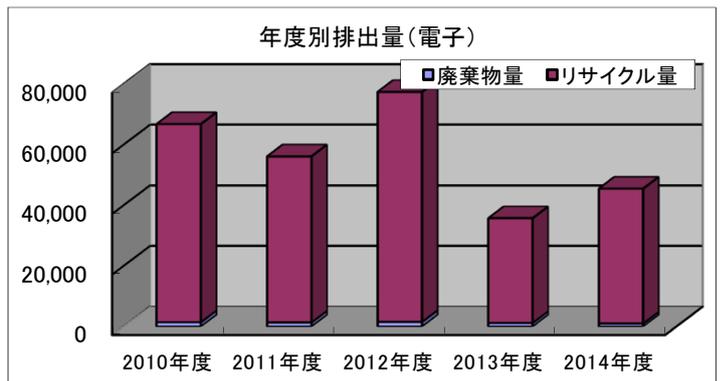
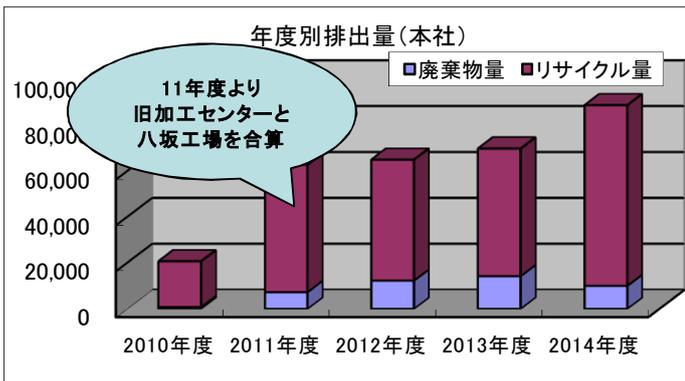
- ①古紙・ダンボール・紙くず リサイクル推進
- ②金属・基板・線材のリサイクル推進
- ③軟質系廃プラ・廃油のリサイクル推進
- ④木材・パソコンのリサイクル推進
- ⑤蛍光灯・乾電池のリサイクル推進
- ⑥乾燥剤・タバコのケースのリサイクル推進
- ⑦ゴミ箱（分別）の設置・識別及び見直し
- ⑧分別徹底の呼び掛け・指導
- ⑨廃棄物処理ルートの特明確化
- ⑩有価対象物の調査

【廃棄物処理ルート図】
 廃棄物の種類毎に、収集運搬⇒最終処分までの処理業者
 や処理方法、再生利用の方法等を明確にしています。



総排出量・リサイクル率の推移

単位:kg



環境汚染物質に関する情報収集・管理体制構築

各事業所の主要プロセスに大きな影響を与える環境汚染物質を特定し、環境負荷低減の施策を計画的に推進しています。

① 本社

RoHS指令をはじめとする各種規制の動向調査のほか、鉛フリー半田に関する業界動向や半田メーカー等の製品について情報収集を行っています。

2017年度末までの鉛フリー半田の完全導入に向け、2015年6月よりWGを組織し、具体的なアプローチを開始します。

② 鬼崎工場

2015年6月の工場稼働開始に向け、環境汚染物質の管理体制強化を進めてきました。

- ・ 有意な作業を特定と関連教育の実施
- ・ 必要な公的資格の把握と、資格取得へのチャレンジ
- ・ SDSの整備
- ・ 塗料・溶剤・ガスについて、入荷・保管・出庫・廃棄に関するルールの整備・向上

③ ML事業部

製造過程において、接着剤を使用する工程は「特殊工程」と位置付けられており、接着強度が製品品質に大きく影響を与えます。

接着剤の接着強度を調整するために塩化メチレンを使用していますが、今後の環境負荷低減のため、以下の取り組みを行っています。

- ・ 塩化メチレンの代替品の調査、検証
- ・ 化学物質の年間使用量の把握

本社の環境配慮設計に対する取り組み

本社の開発・設計を行う部門では、環境に配慮した設計を推進するために、下記の様な取り組みを展開しています。

☆ 環境負荷低減に関する改善提案

「製品ライフサイクル改善シート」を運用し、年間20件の改善提案目標に対し、20件の提案が実施されました。

☆ 社内に周知徹底し、広範囲からの提案を募る→内部コミュニケーション向上。

☆ 改善内容を反映した製品毎の指標作りやルール整備。

環境活動

周辺環境整備・レスペーパー

周辺清掃活動

地域周辺清掃活動報告：3事業所において合計年8回の清掃活動を実施いたしました。

本社



電子デバイス事業部



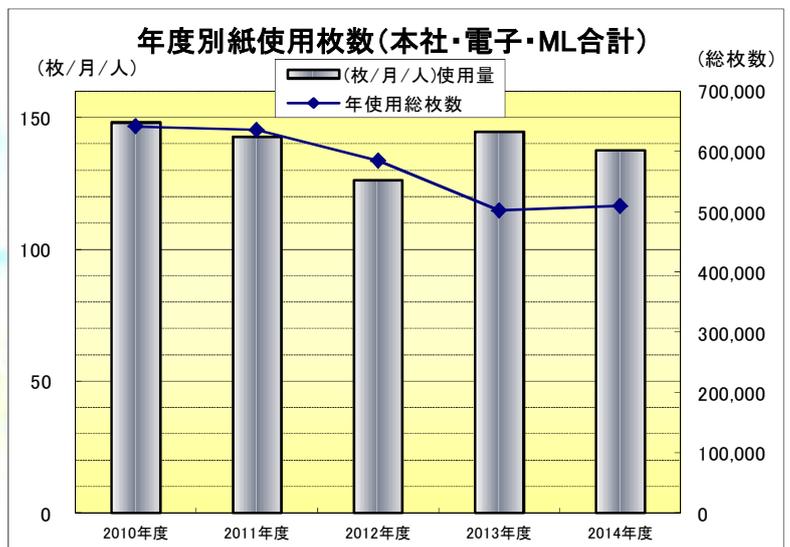
ML事業部



レスペーパー推進活動

削減項目

- ①裏紙利用
- ②縮小コピー
- ③2、4アップ印刷
- ④文書・記録類の電子媒体化
- ⑤印刷ミス予防
 - ・印刷前のデータ再確認指導
 - ・コピー機への裏紙セット時の確認



ML事業部 2015年3月14日(土)

●避難訓練

休憩室から出火したとの想定で
訓練開始。

参加人数: 16名

①②

避難誘導班が人員を工場外へ。

③

消火班が火元に駆けつけ、
消火作業を実施。

④

避難人員を確認後、副隊長へ
人員報告。

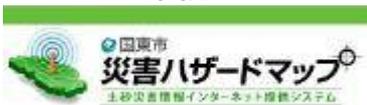
⑤

副隊長より総評

東日本大震災から4年目を迎えました。
あの時の教訓を忘れないように、日頃から防災に
ついて考えて取り組んでいきましょう。



●ハザード確認



国東市ハザードマップを参照し、
ML事業部周辺の避難場所と避難経路、
周辺に点在する危険発生箇所を確認しました。

ML事業部周辺は山に囲まれており、すぐ後ろが
がけ崩れの発生指定箇所となっています。

近隣に住む従業員も認識しておらず、
改めて災害箇所を確認することができました。

津波や洪水の危険はありませんでした。



環境活動

排出物(廃棄物含む)委託先の現地確認

排出物が適正に処理されているか、また今後も継続して委託することに問題がないかを確認するため、年1回、排出物の委託先の現地視察を行っています。

排出物委託先視察業者数 4社6事業所



good



現地視察結果、全ての委託先において、環境に配慮された取引先であることが確認されました。

■ 災害結果報告

全社において、2014年度の緊急事態の発生はありませんでした。

環境教育

環境教育概要

	対象者	講師	実施頻度	テキスト・資料
環境基礎教育	従業員全員 (派遣会社含む)	環境ISO推進担当 総務・人事担当者	入社時	環境基礎教育テキスト
有意な作業に関する教育	有意な作業従事者 及び管理担当者	環境作業教育講師 登録リスト登録者	配属先教育時 …… 該当環境作業手順書の制定及び改訂時	該当部署作成の 環境作業手順書
内部環境監査者教育	※資格保有者	環境管理事務局長 及びその指名者	定期: 1回/年 (事業年度内)	環境マニュアル・規定類 内部環境監査関連資料
開発設計担当者基礎教育	設計開発 業務従事者	開発設計業務 従事者の所属 部署の課長 以上の職制者	定期: 1回/年 (4月) …… 不定期: 新規対象者	製品環境アセスメント規定 …… 関連業務作業手順書 …… 関連業務に関するテキスト …… * 電子デバイス事業部は 品質標準 「設計開発管理規定」

※資格保有者とは、前年度内部環境監査者として検査経験を有する者や、環境管理統括責任者の指名者等の条件を満たした者を指します。

環境基礎教育

入社時にまず「環境とは？」や「社内における環境活動に関する基本的なルール」を学びます。

地球が直面する環境問題や持続可能な社会への取組、ISO14001とは何か、デンケンの環境方針はどのようなものか等、環境に対する基礎的な知識を教育します。

内部環境監査者教育

内部環境監査者として、必要な基礎知識や心得を学びます。

環境方針の具体的内容、ISO14001の規格要求事項及び株式会社デンケンでの運用や進め方、文書体系などの内部環境監査者として必要と思われる環境ISOに関わる教育を行ないます。

環境作業教育

作業するにあたり、知らなければならないことを学びます。

各部署の環境影響評価の結果から導き出された著しい環境側面に対する教育で、有意な作業として定義付けられた工程にて行なわれる、該当する作業内容やその緊急時の対応・訓練も含まれます。

開発設計担当者基礎教育

「環境」に配慮した開発、「環境」に与える影響を、設計を通じて学びます。

製品開発・設計を行なう部署において、一般的な開発設計に関する基礎知識や、開発・設計する製品固有の環境側面(著しい環境側面を含む)や、製品環境アセスメント等について教育を行ないます。

環境側面

当社における2014年度の環境側面調査から得られた、主な環境負荷の状況を表しています。

投入量

プロセス

排出量



本 社

- ◆電気 365,544 kwh
- ◆紙 371,849 枚
- ◆PRTR対象物 58 kg

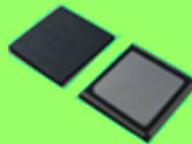


- ◆CO₂排出量 -3,430 t-CO₂
- ◆廃棄物量 10,114 kg
- ◆リサイクル量 78,711 kg



電子デバイス事業部

- ◆電気 8,746,800 kwh
- ◆紙 107,585 枚
- ◆PRTR対象物 7 kg



- ◆CO₂排出量 4,400 t-CO₂
- ◆廃棄物量 1,011 kg
- ◆リサイクル量 44,491 kg



ML事業部

- ◆電気 87,311 kwh
- ◆紙 30,000 枚
- ◆PRTR対象物 473 kg

ぽっかぽか



- ◆CO₂排出量 44 t-CO₂
- ◆廃棄物量 1,242 kg
- ◆リサイクル量 8,157 kg

運 搬



※PRTR（化学物質排出移動量届出制度）
指定化学物質の製造・使用・その他の
取扱い等に係る管理を行なう事

順守評価

法規制の他、当社が同意した要求事項について、社内ルールに則り、定期評価を行っています。

■ 法規制の順守に関わる監視及び測定

本社

監視・測定項目	頻度	測定場所	評価	関連法規
放流水水質測定	2回／年	最終放流口	○	由布市公害防止協定
敷地境界線騒音測定	市指定時	敷地境界	—	由布市公害防止協定
敷地境界線振動測定	市指定時	敷地境界	—	由布市公害防止協定

- * 基準値は、各項目とも公害防止協定にて指定された値とする。
- * 騒音測定については由布市からの指定はありませんでした。

電子デバイス事業部

監視・測定項目	頻度	測定場所	評価	関連法規
放流水水質測定	1回／年	最終放流口	○	水質汚濁防止法
敷地境界線騒音測定	2回／年	敷地境界	○	自主基準による管理
飲料水水質検査	1回／年	飲料水蛇口	○	水道法

- * 基準値は、放流水については「排水基準を定める省令」、騒音については「自主基準値」、飲料水水質については「水質基準に関する省令」に定められた値とする。

ML事業部

監視・測定項目	頻度	測定場所	評価	関連法規
敷地境界線騒音測定	2回／年	敷地境界	○	自主基準による管理
飲料水水質検査	1回／年	飲料水蛇口	○	水道法

- * 基準値は、電子デバイス事業部に同じ。

● 電子デバイス事業部における変化点

自主基準による管理項目である「敷地境界線騒音測定」の測定頻度を1回／年から、2回／年に変更しました。
これは、常に自主基準値をクリアしていることを評価するためには、季節要因も考慮する必要があるとの判断によるものです。



環境監査

外部審査

2015年4月6日～8日の3日間、ISO14001のサーベイランス監査を受審しました。作業手順の規格要求事項への適合性ならびに関連手順書、作業指示等の組織規定類への適合性、法令規制の順守状況、環境目的・目標の達成度合い等を検証して頂きました。結果、1件の不適合を指摘して頂き、マネジメントシステムの更なる向上の機会を得ました。

【総合評価】

組織は方針を基に各機能・階層での目標展開、及び進捗管理を適切に行っています。

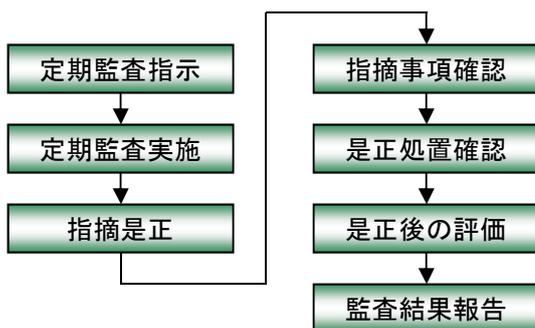


内部監査

株式会社デンケンの環境マネジメントシステムがISO14001の要求事項に適合し、計画通り実行されていることを確認し維持・改善を行なう事により、環境マネジメントシステムの継続的向上を図ることを目的とし、定期的(1回/年)に内部環境監査を実施しています。

2014年度は、全ての被監査部署を同一視点で確認することを目的とし、環境管理委員会事務局を中心とした少数精鋭による内部環境監査を実施した結果、19件の指摘事項が報告され、多くの改善の機会を得ることができました。

【内部環境監査実施フロー】



内部環境監査者 13名

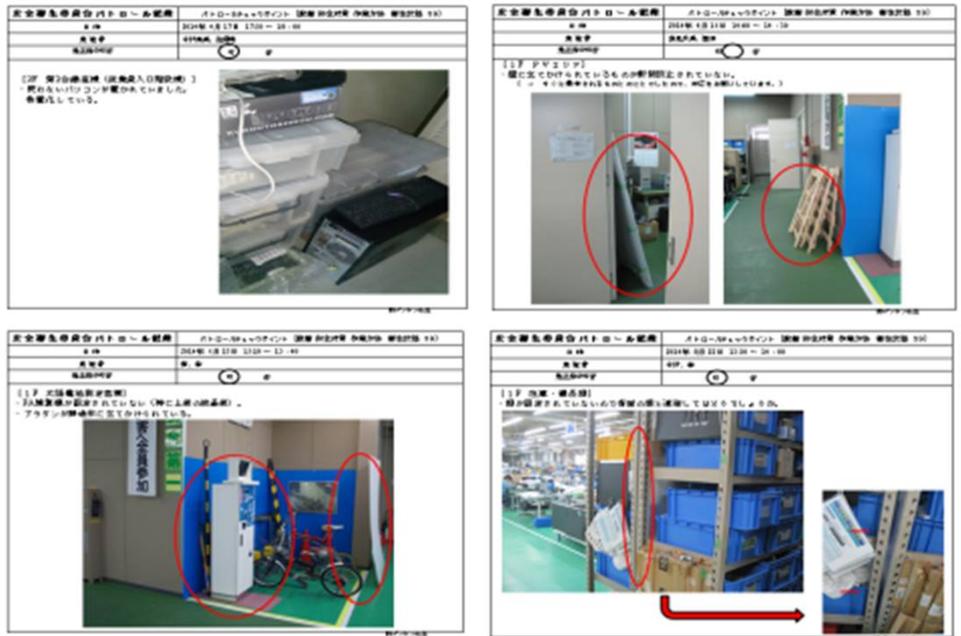


安全・衛生マネジメントシステム

安全衛生パトロール

安全衛生委員会にて安全パトロールを実施し、危険個所を抽出し、確実に是正を行っております。

2014年度は44件の不具合を抽出しました。



従業員の安全に対する意識付けを行っています。

「環境」「交通」「防火」「健康」「業務」のテーマが寄せられ、優秀作品を表彰してその標語を掲示板に1ヶ月掲示しています。

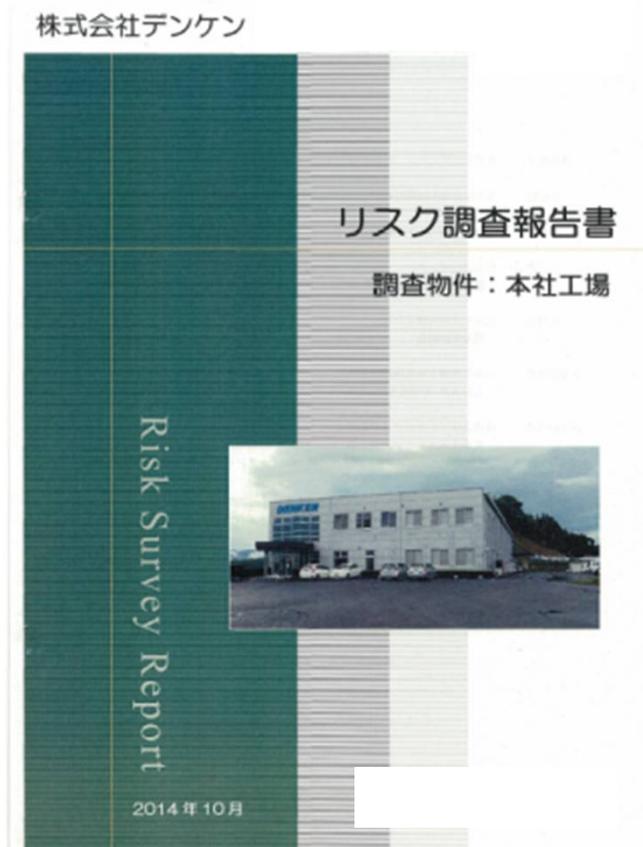
安全衛生標語 2014年度 12撰

- 4月 安全は 1良し! 2良し!...終い良し!
- 5月 テクニック その過信が 事故を呼ぶ
- 6月 安全確保に終わりなし 抜くな点検 省くな作業
- 7月 譲れない 道を譲る その心
- 8月 守ってますか 標準作業 みんなが作る安全職場
- 9月 温暖化 怖い貴方の無関心
- 10月 これくらい! 小さな怠り、大きな災害
- 11月 決めた事 守るあなたが守られる 安全意識の職場づくり
- 12月 その運転 責任取れるの 一生涯
- 1月 品質は ひとりひとりの 心がけ
- 2月 安全は ころのくぱり めのくぱり
- 3月 ゴミゼロで、未来に繋げるきれいな地球



BCP(事業継続計画)

リスク調査



各事業所のリスク調査を専門機関に依頼し、以下の観点からリスクの抽出が行われました。

- 火災リスク
- 風水災リスク
- 地震リスク
- 雷リスク
- ※被害想定

本社では、より効果的な防災防火活動を推進するための「防災防火年間計画」の必要性や、地震対策として行ってる予防策について、まだまだ不備な点が存在するなど、多くの気づきの機会となりました。

今回の調査結果をベースにし、更なる改善活動を継続していきます。

BCP基本方針

株式会社デンケンは、自然災害や事故等の、事業継続に支障を来たす様々なリスクに備え、人命尊重を第一に、事業を早急に復旧し、顧客へ迅速な対応を行うために、事業継続に関する基本方針を以下に示します。

1. 従業員、協力会社、地域住民などの人命の安全確保に最大限努めます。
2. 被災住民の救助・避難、被災地の復興支援により、地域社会に貢献します。
3. 主要製品の供給継続、または出来る限り速やかな供給再開により、顧客への製品供給責任を果たします。
4. 事業を可能な限り継続し、経営への影響を最小限に留めることにより、株主・債権者・従業員の期待に応えます。

2011年 4月 1日

(株)デンケン 代表取締役社長 石井 源太

コミュニケーション①

■ 従業員の声

本社 SS事業部 財田 康弘

昨今、環境問題の対策に取り組むことが、世界の各企業の課題であると考えています。我が社の環境問題に対する取り組みは、ゴミの分別・古紙などの再利用・クールビズなどがありますが、今回は我が社の取り組みの一つ、『2Sタイム』について紹介します。

『2Sタイム』とは、毎週水曜日と金曜日に30分の2S(整理・整頓)の時間を設けるシステムです。この時間で、先輩方よりゴミの分別を教えて頂きながら、コミュニケーションを取ることができる為、とても充実した機会となっています。

また、この時間を繰り返し行うことで、普段の生活でもゴミの分別を心掛けるようになりました。

環境問題の対策が重要視される近年、環境に配慮した企業に就職できたことを嬉しく思っています。



電子デバイス事業部 吉良 純一

気象変化、活発な火山活動等、日本の環境も年々変化しています。日本の技術でこの環境の変化に耐えうるよう、産業も変化しており、今では、環境の変化に動じないよう技術開発がなされています。気象の変化に影響を受けない、植物工場や養殖工場。個人的にすごく興味を持っています。

だからといってそのまま環境の変化を進行させていくわけには行きません。やはり個人として取り組むべきは、身近なエコ活動ではないでしょうか。

Reduce(ゴミを出さない)、Reuse(繰り返し使用する)、Recycle(再生利用する)の3Rは良く知られていますが、最近では、Refuse(不要なものは買わない)、Repair(修理して使い続ける)も加えて5Rが使われています。

ちょっと待って♪ちょっと待って♪♪おにい…

Refuse、Repairって環境に対するエコ活動と同時にフコロのエコ活動にもなっちゃってます。\$ \$

明日からRefuse、Repair意識してみてください。

ちょっとしたご褒美に変わるかもしれませんよ。



ML事業部 業務管理課 山本 文弥



ML事業部では、事業部周辺のゴミ拾いや、ゴミの分別の徹底、節電、クールビズ・ウォームビズなど様々な取り組みを行っています。また、暑くなるこれからの時期に向け、今年もグリーンカーテンを実施する予定です。暑さ対策として効果絶大です。

私が入社してから個人的に続けている活動として、出勤後に事業部周辺の掃除を行っています。時期によっては落ち葉が大量にあたり、雨が降った後には大量の土砂が流れてきたりするので、毎朝これから出勤される方やご来社して下さる方々が笑顔になってくれるようにと考えながら掃除をしています。

この活動で事業部周辺は綺麗になり、清々しい気持ちで一日のスイッチをオンにする事ができ、一石二鳥だなと感じています。外の新鮮な空気を吸いながら活動することで頭がスッキリするので、結構オススメです。

このおかげで気持ちに余裕ができてきているのか、最近では車で移動中に急発進急停車が減ってきており、CO2削減にもつながっている気がします。環境活動とは、意識し些細なことでも続けていくことが一番大切だと思いますので、今後もこの活動を続けていきたいと思っています。

コミュニケーション②

◆杵築市花咲き街道参画

2014年度

杵築市大内（国道213号線）に市主催の花咲き街道に参画しています。

14年度は、5月22、30日、10月9日、11月4日、3月30日に、花植えを行い地域環境の癒しになればと思います。

近くにお寄りの際は、花咲街道を是非ご覧ください。

今後も継続的に実施してまいります。



◆インターシップ受入

実施期間：2014年10月21日～23日



ML事業部では、恒例となりました地元の国東高校の生徒さんのインターンシップ受入を実施しました。

今年も2名の参加で、デンケンの概要説明、ISOへの取組などの講義のあと、実際に組立てと梱包作業までを行い、製品を完成させる事を実体験して頂きました。

「お客様が使うと思うとドキドキした」、「良い経験になった」との感想を頂き、今後も皆さんの就業体験の場としてご協力できればと思います。



◆会社見学会の開催

2014年12月18日



大分工業高等専門学校情報工学科3年生43名と先生2名をお迎えして、会社見学会を開催致しました。

実際の製造現場、自社で開発したソーラー発電所の監視システムや、自社で設置したメガソーラーの見学会を行いました。毎年開催しており、お互い良い刺激になっているのではないかと思います。



DENKEN

株式会社デンケン

www.dkn.co.jp



株式会社デンケンは、
気候変動キャンペーン(Fun to Share)
に賛同しています。

株式会社デンケン環境レポート2015をお読み頂きありがとうございました。
この報告書について、ご意見・ご感想などございましたら本用紙を連絡先までFAX
下さい。今後の環境保全の参考とさせていただきますので、ご協力お願い致します。

にレ点でご記入くださいませ。

1. この環境レポートの全体の印象はいかがでしたか。

好印象 普通 悪印象

ご意見 []

2. この環境レポートの情報量はいかかでしたか。

多い 普通 少ない

ご意見 []

3. この環境レポートの読みやすさ(文字の大きさ・写真・グラフ等)はいかがでしたか。

読みやすい 普通 読みにくい

ご意見 []

4. 昨年度の環境レポートはご覧になりましたか？

はい いいえ

<ご覧いただいた場合>

昨年度と比較して 良い 同じ 劣る

5. どのような立場でお読みになりましたか？

お客様 お取引先 行政機関 研究・教育機関 医療機関 学生
 デンケン従業員 その他 []

6. その他、この環境レポートに関するご意見・ご感想、何でも結構ですので、お聞かせ下さい。

[]

(ご送付先)

〒879-5513 大分県由布市挾間町高崎97番地1

株式会社デンケン 環境管理委員会事務局

TEL : 097-583-5535 FAX : 097-583-5580

<http://www.dkn.co.jp/> E-mail : eco@dkn.co.jp